

一般質問
支障木について



山添 和良 議員
(市民クラブ)

行政指導・行政代執行せよ！

質

道路上に枝が張りだしている支障木は、交通事故等の原因となったり、通行人が怪我をする可能性がある。道路法第43条および第44条に従つて行政指導および行政代執行が可能であると思うが、いかがか。とくに、バス路線にある支障木は早急に対処すべきである。さらには雪が積もると支障木になる可能性が高いものもある。実態把握と対策の検討を行う必要があると思うが、いかがか。

答

民地からの支障木は本来、所有者が除去すべきであるが、所有者が不明または市外在住などで対応困難な事例がある。令和3年の民法改正により、緊急時や所有者が勧告に応じない場合には、市による支障木除去が可能となり、安全確保の観点から市が対応しているが、今後は状況に応じて必要な対策を検討していく。

市では市道パトロールを毎週実施しており、バス路線に限らず市内全域の支障木を把握・除去している。今後はバス路線を重点的にパトロールし、倒れそうな木や竹などを事前に除去するなど、交通安全対策を強化していく方針である。毎年同じ箇所で発生する支障木は把握しており、降雪前に現地確認・除去を行っている。予期せぬ箇所でも通行障害が発生するため、今後はパトロール時に上空の樹木や竹まで確認範囲を広げ、事前除去を進めていく考えである。



一般質問

■公共交通の課題と、今後の取組みについて

質

七尾市の公共交通はJR・のと鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシーなど多様な手段があるが、利用者減少や運転手不足、車両「スト増などにより事業維持が困難になつていて。市は公共交通計画を策定してきたりが、現状の課題認識を伺う。また、自動運転バスの導入は不採択となつたが、今後の見通しやグリーンスローモビリティなど新しい交通手段の検討状況も伺いたい。

さらに、能登島交通や恵寿総合病院によるデマンド交通の実証が進む中、市の関与が薄かつた点を踏まえ、予算化されたオンドマンド交通導入可能性検討事業の狙いや実現への見通しについても伺つ。

答

路線バス及びコミュニティバスについては、全国的にも運転手不足から廃線となるものが増えており、当市においても現在の路線を今後も維持していくことが困難になつていくのではないかと考えている。このような公共交通が直面している課題を踏まえ、交通体系を複合的に見直すべきと考えており、地域や利用者、交通事業者ともしっかりと検討していくないと考えている。

自動運転バスについては、全国各地で実証運行が行われているが、事故などの報告がされており、現在のところ、課題も多いのではないかと考えている。低速で走行する電動車であるグリーンスロー・モビリティの実証の予定は、今のところはないが、導入については、考えていかなくてはならないと考えている。

今月から、コミュニティバスの便別の利用者状況を把握するとともに、交通事業者に対しても聞き取りを行うなど、調査結果や地域の二itzerをもとに、令和8年度にはオンドマンド交通の実証運行を行いたいと考えている。市としては、持続可能な地域を維持する上で、交通政策については、今後、なお一層、力を入れていかなくてはならないと考えている。



高橋 正浩 議員
(無会派)

